

海外安全対策情報（２０２０年１０月～１２月：コロンビア）

１ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（１）全般

ボゴタ市、メデジン市、カリ市等の都市部を含め、窃盗・強盗の一般犯罪被害が昼夜を問わず多発している。比較的治安が良いとされる地域でも、飲食店内の置き引き、バイク利用強盗、夜間の路上強盗、警察官を偽装して金をだまし取る等、様々な手口の犯罪が見られる。３月以降の新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出制限措置の影響で、一時的に犯罪統計の減少が見られたが、外出制限緩和以降、犯罪件数が再度増加する等、大きな治安改善は認められない。

被害に遭わないためには、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗に遭った場合は生命を第一に考え、絶対に抵抗してはいけない。

（２）邦人犯罪被害事案

・１０月３０日午後７時２０分ころ、ボゴタ市内のスーパーで買い物をするため、スーパー前の路上に車を駐車し、約１５分で買い物を終えて車に戻ったところ、車の右後部座席の窓ガラスが割られ、後部座席に置いていた鞆が盗まれていた。車載カメラの映像から、被害者が被害場所に到着した時点、犯行グループの車両が前方に停車しており、２０代の男二人組が同場所に停車している他の車を物色する様子が記録されていた。犯行グループは、被害者が車を置いて離れる隙を狙い、速やかに犯行に及び、逃走車両に乗車して現場から逃走した。

・１２月１８日午前１０時ころ、ボゴタ市内のスーパーで商品を選びレジで支払う際、バッグのファスナーが開いており、財布が盗まれたことに気づいた。

・１２月１９日午後１１時ころ、メデジン市内の飲食店で知人らと立食中、ズボン前ポケットに入れていたスマートフォン等が気づかぬうちに盗まれていた。当時、店内は比較的混みあっており、知人も同様にスリ被害に遭っていた。

２ テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

ＥＬＮ、ＦＡＲＣ離反兵等の反政府武装組織の活動が活発な地域で、治安当局やインフラ施設に対するテロ事件が発生している。ボゴタ市では２０１７年６月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む３名が死亡する無差別テロ事件が発生しているほか、２０１９年１月にも市内の警察学校内でＥＬＮによる自動車爆弾テロで学生２２名が死亡するなど、今後もテロへの警戒は必要である。

・１０月１２日、アトランティコ県バランキージャ市で警察施設を狙った手榴弾を使用したテロにより警察官２名負傷。

- ・ 11月19日、バジェ県ハムンディ市でFARC離反兵の武装攻撃により市民1名死亡、警察官1名負傷。
- ・ 12月11日、バジェ県ハムンディ市で警察車両を狙った武装攻撃により警察官2名死亡。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

ELN等の反政府武装組織や麻薬犯罪組織が、身代金目的の誘拐、恐喝、脅迫を行い、資金源としている。都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、流しのタクシー（タクシーアプリ等と呼ぶ無線タクシーではない）は利用しない等の注意が必要である。

- ・ 12月5日、カウカ県トルビオ市の山間部を自家用車で移動中のスペイン人がFARC離反兵に誘拐されたが、12月7日、無事に釈放された。